

第 8 号 (2022 年 1 月 15 日 発行)

<第 8 号 TOPICS>

1. 新年ご挨拶

田畑 務 診療支援部門担当副院長 産婦人科 教授・基幹分野長

2. 新任教授のご紹介

水主川 純 母子総合医療センター 教授

中溝 宗永 耳鼻咽喉科 特任教授

3. 診療科のご紹介 ※別紙をご覧ください。

腎臓内科 腎臓小児科

4. 当院の新型コロナウイルス感染予防対策について 有村 健 呼吸器内科 講師

5. 外来診療予約方法（医療機関専用）について

6. 大学図書館の利用制限について

7. お知らせ

★★

1. 新年ご挨拶

田畑 務 診療支援部門担当副院長 産婦人科 教授・基幹分野長



新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年はコロナ感染蔓延のため、我々医療関係者にとりまして大変な試練の年でした。患者様が入院して頂く当院では、まずは、院内のクラスターを発生させないように、職員が一丸となって感染防護対策を行って参りました。おかげさまで、当院ではクラスターの発生はなく、無事に通常診療を行うことができました。しかしながら、昨年末よりオミクロン株の流行が危惧されています。患者様がより安心して診療を受けていただけるよう、まずは感染対策に十分な注意を払いながら、質の高い医療の提供を心がけてまいります。当院は地域の先生方からのご紹介で成り立っている病院です。今年も地域一丸となってコロナと戦い、先生方との連携を密にとり、共に、患者さんの診療に当たって参りたいと存じます。

本年もご支援賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

2. 新任教授のご紹介

かこがわ
水主川 純 母子総合医療センター 教授



このたび、2021年9月30日付けで母子総合医療センター教授を拝命いたしました。母子総合医療センターでの診療は、合併症を有する妊産婦さんや多胎妊娠などの周産期管理、胎児診断、麻酔科と連携した無痛分娩など多岐に渡っています。妊娠・出産は大きなライフイベントの一つであり、その経過には不安が伴います。妊娠中の不安は子どもへの愛着形成や育児にも影響するとされています。したがって、妊産婦さんの不安が少しでも軽減されるように、地域の先生方と連携して切れ目のない支援が行われるように取り組んでいきたいと思っております。そして、それぞれの妊産婦さんやそのご家族に寄り添い、最新の医療技術や知識に基づいた最良の治療が実践できるように研鑽を重ねていく所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

母子総合医療センターのホームページはこちらから ↓

<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/shinryo-bumon/d21b-maternalperinatal.html>

中溝 宗永 耳鼻咽喉科 特任教授



本年7月29日付で耳鼻咽喉科特任教授を拝命致しました。生まれも育ちも東京西南部で、山の手以西は慣れ親しんだ地域です。Subspecialtyは頭頸部腫瘍で、耳鼻咽喉科専門医取得前から癌研究会附属病院（現在のがん研有明病院）で頭頸部がんの放射線治療や遊離組織移植再建術を含む頭頸部腫瘍の手術と診療全般を学びました。前任校では複数の女性頭頸部がん専門医を育成し、関連学会では頭頸部悪性腫瘍全国登録に委員長として関わりました。頭頸部は呼吸・嚥下などの生命維持と音声・言語などのコミュニケーションに関わる領域であるため、その悪性腫瘍では命と機能のバランスを考慮した治療が必要です。また領域横断的な多職種チーム医療が最も必要ながんとも言われます。本院ではしばらく頭頸

部がん専門医が不在でしたが、今後は私達頭頸部がん専門医が核となって患者さんに最適な医療が提供できるように努力致します。ご指導とご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科のホームページはこちらから ⇒ <http://www.twmu.ac.jp/TWMU/Medicine/RinshoKouza/121/>

3. 診療科のご紹介（腎臓内科・腎臓小児科）は別紙をご参照ください。

4. 当院の新型コロナウイルス感染予防対策について

呼吸器内科 講師 有村 健

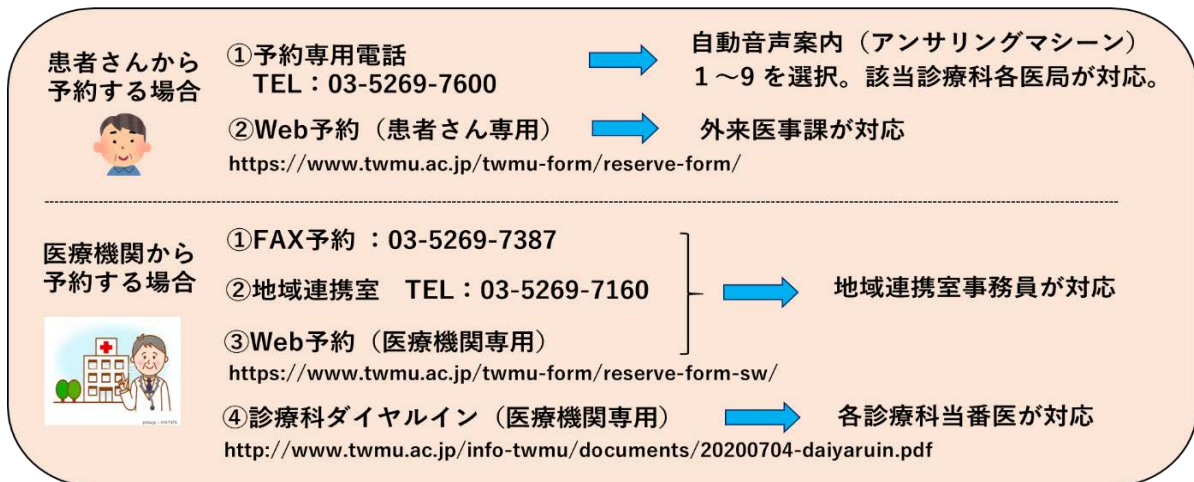
2019年12月より中国武漢で新型コロナウイルスの報告があり当初は、SARS、新型インフルエンザ、MERS 同様の輸入感染症としての認識でありましたが、その後“想定外”の流行となり、パンデミックとなりました。当院でも2020年3月よりコロナチームが発足しコロナ患者の受け入れが始まりました。開設当初は見えない新型コロナウイルスに対する恐怖感しかなかった記憶があります。しかし適切な装備や対策により感染防御可能であることが分かった後には恐怖感は薄れていきました。2021年12月20日現在、当院では626名(男性388名、女性238名)のコロナ患者を受け入れており、これは日本の大学病院の中でも最上位クラスの様です。その時点で有効とされる治療を行ったにも関わらず残念ながら亡くなられた患者さんがいる一方、肺炎以外でのその想像を超える患者の多彩な症状には驚きを禁じ得ないこともありました。また、世界中で院内感染が問題になっておりますが医療従事者が感染対策を徹底することは当然のことながら当院では院内感染を防ぐため当初より①外来トリアージ患者、②他疾患での予定入院患者、③様々な疾患での緊急入院患者に対して徹底的な新型コロナウイルス PCR 検査の取り組みが行われています。2020年3-5月まで上記2981名の患者さんの内、①1.81% (95% CI: 0.95-3.47%)、②0.04% (0.0002-0.2%)、③3.78% (1.82-7.26%)であり当然のことながら症状のある①、③が高くなっていました。これまでのところ幸いにも当院では院内クラスター発生による院内感染症例はなくこの取り組みは有効と考えております。

日本ではいわゆる第5波と言われた2021年7-9月は毎日複数名の退院患者さんがいた一方、同程度の緊急入院患者さんがいらっしやりに常に満床、自転車操業の状況でありました。これまでの株とは異なりデルタ株ではほとんどの患者さんに肺炎があり容易に重症化するケースが多く見られました。その状況下でも抗体カクテル療法は明らかに実際の有効性を実感できるものでした。特に感染、重症化しやすいと言われる移植患者さん41名の内、当院における同治療投与群は非投与群と比較して解熱(2日 vs. 6日、 $P = 0.0002$)、入院期間(8日 vs. 15日、 $P < 0.0001$)でありかなりの手ごたえを感じることができました。現在は発熱外来における治療の整備やアフターコロナ外来の構築に取り組みながら世界的に流行しているオミクロン株に感染した患者さんに対してもまた、当院が貢献できるよう準備をしております。

5. 患者さんのご紹介・診療予約について（医療機関専用）

医療機関の先生方からのご紹介・診療予約につきましては、診療希望日に時間的に余裕がある場合は、FAXまたは予約フォーム（Web予約）をご活用いただければ幸いです。お急ぎでの予約をご希望の場合は、直通電話または各診療科ダイヤルイン（下記 URL 参照）へご連絡ください。また、専門外来など各診療科で連絡窓口を設置している場合もあり、各診療科のホームページ（下記 URL 参照）もあわせてご参照いただければ幸いです。なお、患者さん・ご家族が直接予約をされる場合は、患者さん専用の予約番号へおかけいただけるようご案内いただければ幸いです。大変お手数をおかけしまして誠に申し訳ありませんが、何卒宜しくお願いいたします。

診療予約システム



患者さん専用予約システムの変更についてはこちらもご参照ください。↓

<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/documents/yoyaku-20200808.pdf>

診療科ダイヤルイン一覧はこちら ↓

<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/SW/images/image-sw/pdf/daiyaruin-200515.pdf>

Webでの予約申し込みはこちらから ↓

<https://www.twmu.ac.jp/twmu-form/reserve-form-sw/>

各診療科のホームページはこちら ↓ ※部門 HP をクリック

<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/shinryo.html>

6. 大学図書館の利用制限について

現在、新型コロナウイルス感染予防のため、引き続き外部の方の利用を制限させていただいており、連携登録医の先生方には、ご利用いただけない状況になっております。誠に恐れ入りますが、利用制限が解除になり次第、改めてご案内させていただきますので、ご理解・ご協力のほど何卒宜しくお願いいたします。

大学図書館の詳細はこちら → <http://www.twmu.ac.jp/library/>

ご案内図



◎地下鉄

都営大江戸線 ②若松河田駅下車(若松口より徒歩約5分)

③牛込柳町駅下車(西口より徒歩約5分)

都営新宿線

④曙橋駅下車(A2出口より徒歩約8分)

◎都営バス

宿74系統 ①新宿駅西口→東京女子医大前

宿75系統 ①新宿駅西口→東京女子医大前←⑧四谷駅前←三宅坂

早81系統 早大正門→⑤馬場下町(早稲田駅)→東京女子医大前←⑥四谷三丁目←

千駄ヶ谷駅前←原宿前←渋谷駅東口

高71系統 ⑦高田馬場駅前→東京女子医大前←⑨市ヶ谷駅前←九段下

腎臓内科

1. 科の紹介

腎臓内科は「患者さんを中心に考える」ことをポリシーとして腎疾患の患者様に寄り添い、患者さんの社会生活を尊重して診療にあたっています。特色としては腎臓総合医療センターとして他に泌尿器科、腎小児科、移植管理科、血液浄化療法科の5つの診療科から成り、各科の密接な連携の下に患者さんを診療しています。疾患としては慢性糸球体腎炎、急性糸球体腎炎、高血圧、慢性腎臓病、急性腎障害、ネフローゼ症候群、膠原病、遺伝性腎疾患、水・電解質異常、尿細管間質性腎炎、血管炎、その他の全身疾患に伴う腎疾患、透析困難症や透析患者の合併症など腎疾患を中心に全身をみる診療を行っています。外来医師はどの疾患でも対応しておりますが、指定難病のIgA腎症専門外来（健診で血尿、蛋白尿、クレアチニン上昇を指摘された方など含む）、多発性嚢胞腎専門外来を有しております。また慢性腎臓病ステージ4以降ではご紹介いただくと腎代替療法選択外来にて医師、看護師、臨床心理士を含め複数のスタッフが関わり患者さん個人のライフスタイルに合わせた選択（腎移植、血液透析、腹膜透析）ができるように情報提供をしております。腎臓特有の検査としては腎臓超音波検査（腎血流評価も含む）、腎臓病の原疾患の診断、予後の推定、治療法の決定には入院での腎生検検査がございます。また慢性腎臓病は心血管疾患のリスクになりますので、心臓超音波検査、頸動脈超音波検査など動脈硬化の検査、骨代謝検査、骨密度検査なども患者さんに合わせて行っております。国内には1330万人の慢性腎臓病の患者様がおります。ご自身、ご家族の病気に対する正しい理解と自己管理、生活習慣が大切となり、食事療法に関する個別の栄養指導や教育入院もお勧めしております。



診療部長 新田孝作

●診療実績

2019年 外来初診患者 2151名 入院患者 705名 腎生検 104名（IgA腎症 37名、ループス腎炎 8名、膜性腎症 9例、巣状糸球体硬化症 6名、微小変化型 5例、半月体形成性腎炎 5例など） 透析導入 114名（原疾患：糖尿病性腎症 22例、腎硬化症 28例、慢性糸球体腎炎 30例、多発性嚢胞腎 9例、急速進行性糸球体腎炎 4名など）

2. ご紹介いただきたい疾患・症例、予約方法など

上記疾患の患者様の診療をさせていただきます。また右図の赤い部分（高度尿蛋白、腎機能中等度低下）に該当する場合、当科へ紹介いただき、外来診療、教育入院や療法選択外来を通して患者さんの治療選択に寄り添う診療を心掛けております。かかりつけの先生方と交互に医療連携を取りながらの診療を心掛け、今後も一緒に患者さんの診療をさせていただきます。

初診予約は月～土で受け付けております。

原疾患	蛋白尿区分	A1	A2	A3	
糖尿病	尿アルブミン定量 (mg/日) 尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)	正常 30未満	微量アルブミン尿 30～299	顕性アルブミン尿 300以上	
	尿蛋白定量 (g/日) 尿蛋白/Cr比 (g/gCr)	正常 (-) 0.15未満	軽度蛋白尿 (±) 0.15～0.49	高度蛋白尿 (+～) 0.50以上	
高血圧 腎炎 多発性嚢胞腎 その他	G1 正常または高値	≥90	40歳未満は紹介、40歳以上は生活指導・診療継続	高度蛋白尿のみならず生活指導・診療継続	紹介
	G2 正常または軽度低下	60～89	40歳未満は紹介、40歳以上は生活指導・診療継続	高度蛋白尿のみならず生活指導・診療継続	紹介
	G3a 軽度～中等度低下	45～59	40歳未満は紹介、40歳以上は生活指導・診療継続	高度蛋白尿のみならず生活指導・診療継続	紹介
	G3b 中等度～高度低下	30～44	紹介	紹介	紹介
	G4 高度低下	15～29	紹介	紹介	紹介
G5 末期腎不全	<15	紹介	紹介	紹介	

エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018より【かかりつけ医から腎臓専門医療機関への紹介基準】

3. 腎臓内科からのお知らせ

患者さんを中心に、地域の先生方にご協力いただきながら診療を行っております。どうぞよろしくお願いいたします。

※診療担当表 URL <http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/doctor/jinzoubyou/22kidney2ns2.html>

※腎臓内科のホームページはこちら → URL : <http://www.twmu.ac.jp/NEP/>



腎臓小児科



診療部長 服部 元史

1. 科の紹介・診療実績

腎臓小児科では、学校検尿における検尿異常者の精査、先天性腎尿路異常、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、尿細管機能異常症など全ての小児腎臓病の診断・治療を行っています。さらに、保存期腎不全や末期腎不全症例では、小児外科、泌尿器科、血液浄化療法科などと連携して子どもにとって最善の腎不全治療を提供しています。また、必要に応じて管理栄養士による栄養指導や、移植コーディネーターならびに臨床心理士と協調して、腎移植や透析患者さんの継続したサポートを行っています。2021年7月にPICUが開設され、小児集中治療科との連携で、溶血性尿毒症症候群や乏尿性急性腎障害など緊急性の高い重症患者さんの受け入れも万全な体制となっています。

● 診療実績

<腎生検>

固有腎生検 20～30 例/年、移植腎生検 40～50 例/年。

<体外循環血液浄化療法・透析>

維持腹膜透析患者：10 名前後、血液透析導入：5～10 例/年、血漿交換療法：5～10 例/年（巣状分性糸球体硬化症、ABO 血液型不適合腎移植、抗体関連拒絶など）

<腎移植>

2021年10月現在、433 例（年間 10～15 例、血液型不適合腎移植、巣状分節性糸球体硬化症、腎外合併症を有する児などの難度が高い移植を含む）の実績があります。

2. ご紹介いただきたい疾患・症例、予約方法など

学校検尿異常、水腎症、尿路感染症、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、尿細管機能異常症、慢性腎臓病、透析・腎移植患者など、すべての小児腎疾患患者をご紹介いただけます。当科初診予約は毎日（月～土、原則午前）受け付けています。初診予約方法の詳細については病院ホームページをご参照ください。

<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/index.html>

常時、緊急対応もしております（ダイヤルイン：03-6709-9374（夜間・休日はオンコール体制））。

3. 腎臓小児科からのお知らせ

当科の特色や診療体制などをホームページに掲載しています。ご興味のある先生方は下記 URL からぜひご覧ください。

※診療担当表 URL

<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/doctor/jinzoubyou/20kidney3p.html>

※腎臓小児科ホームページ

<http://www.twmu.ac.jp/TWMU/Medicine/RinshoKouza/093/index.html>